

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果報告 中学校

令和7年度全国学力・学習状況調査の実施概要

1 調査日

令和7年4月14日（月）～17日（木）

2 調査集計対象

中学校第3学年生徒

3 市内実施校数（市立）

中学校6校

4 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る
- 学校における個々の生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

5 調査内容

① 教科に関する調査

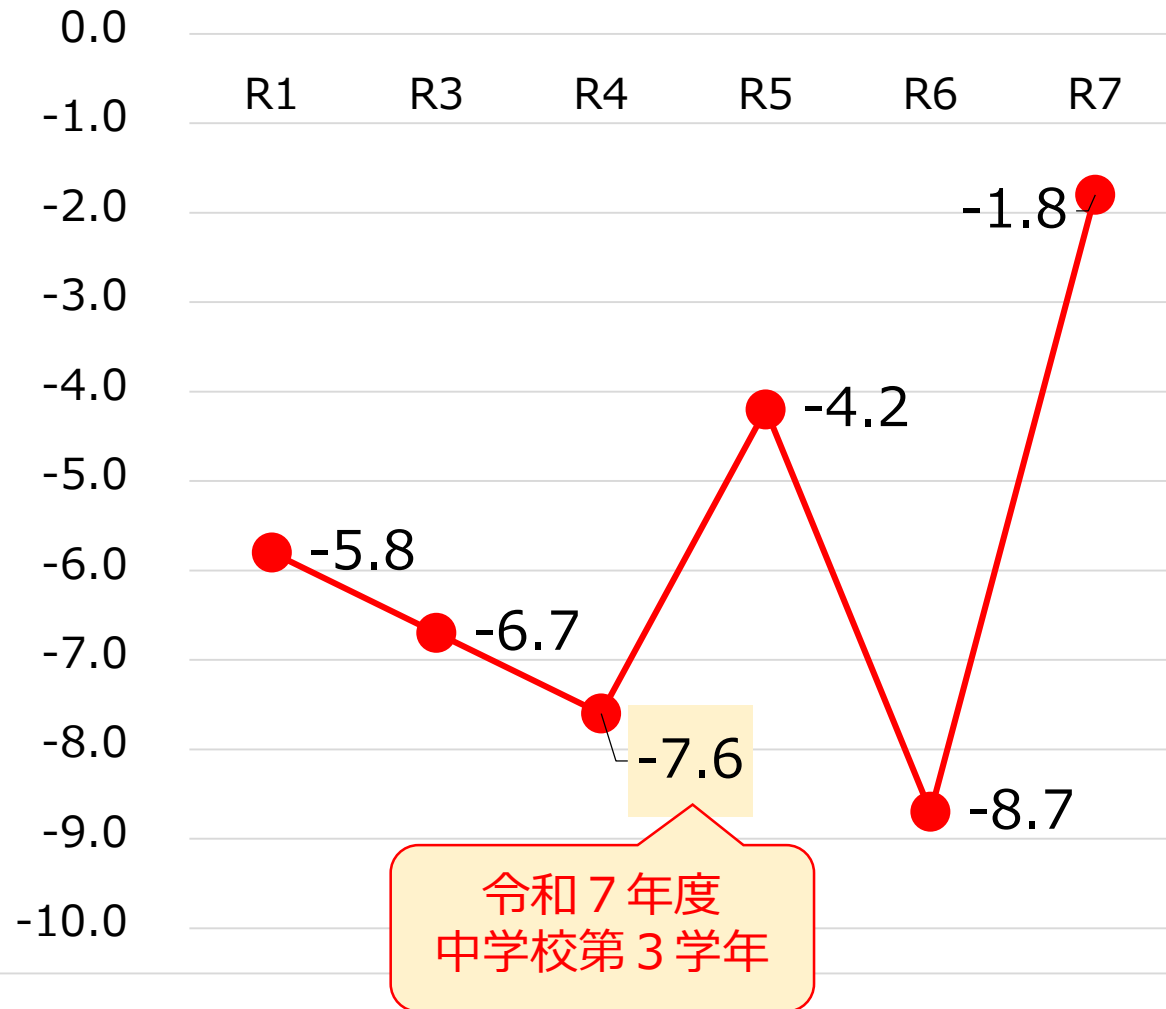
- 国語、数学、理科（CBT）

② 質問紙調査

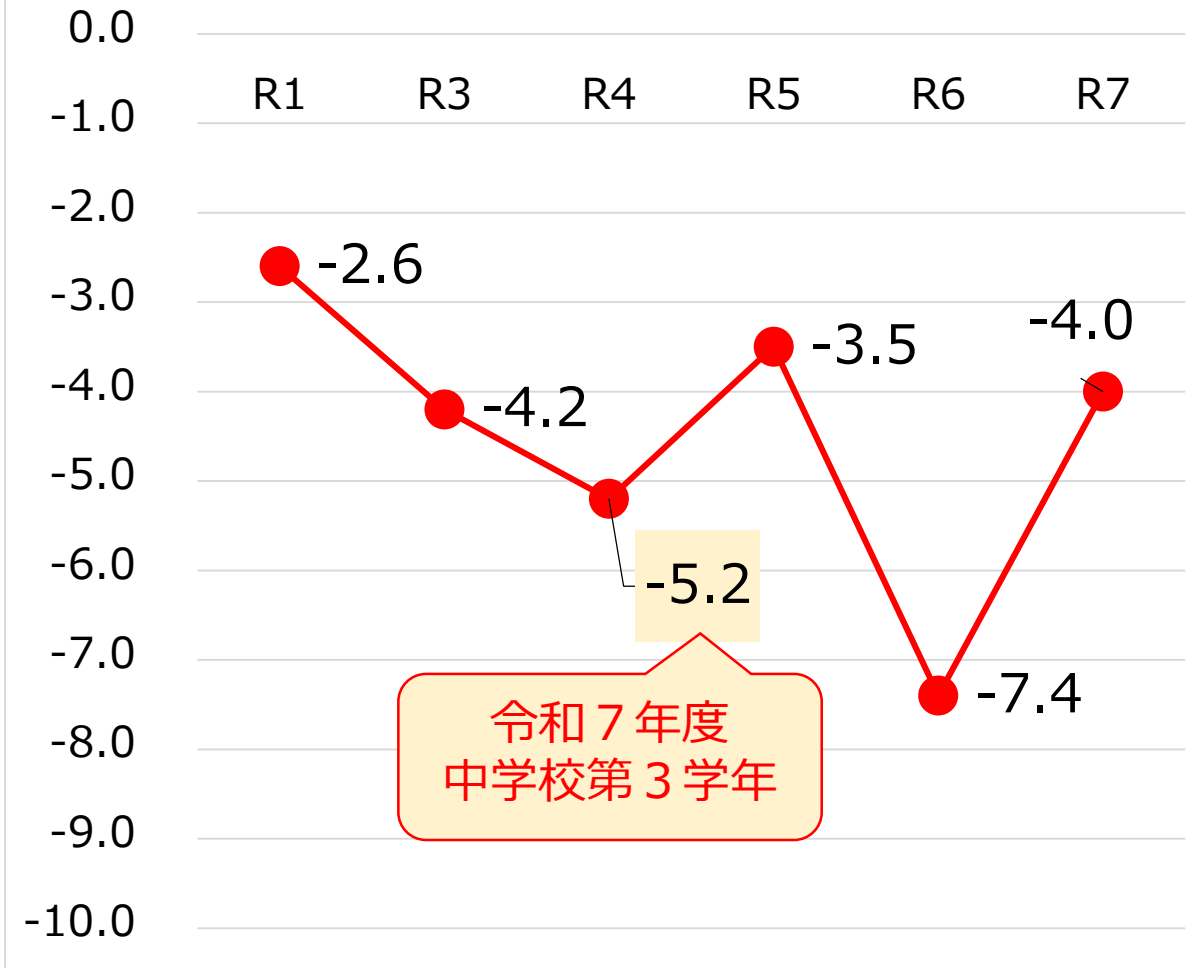
- 生徒質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査）
- 学校質問紙調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する調査）

全国（公立）平均正答率との差の推移

小学校 国語

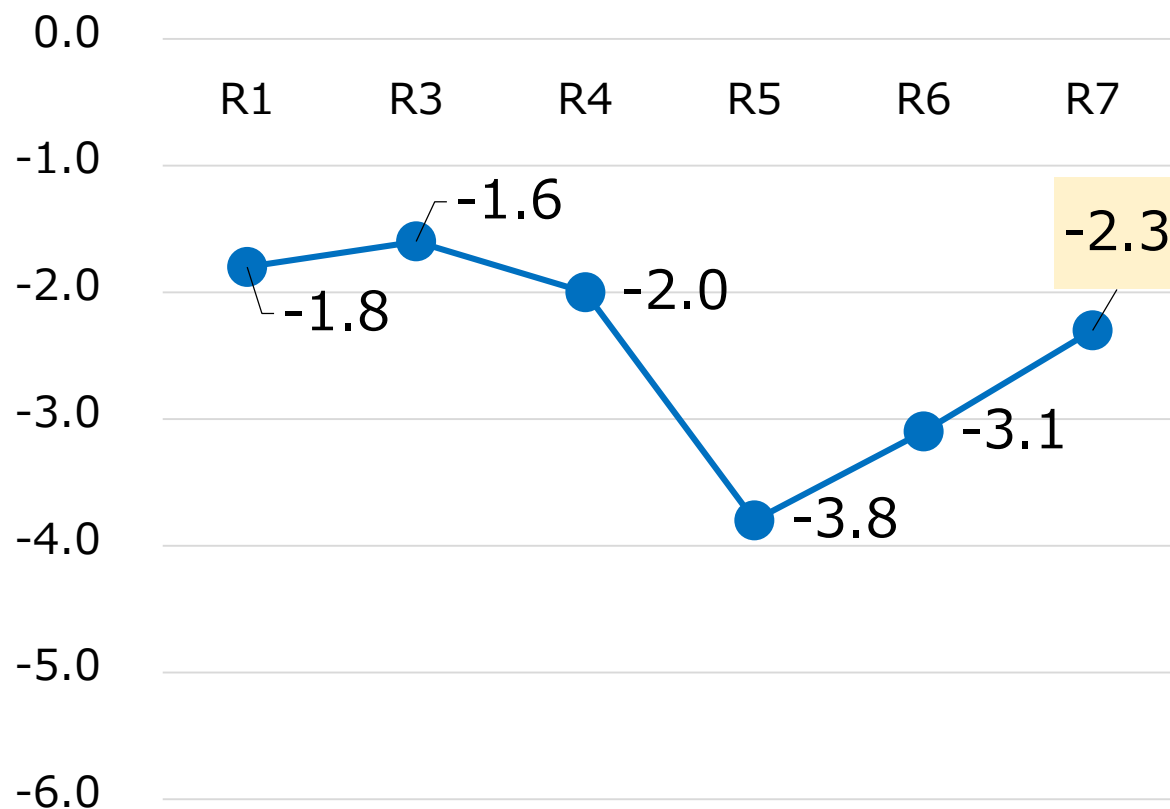


小学校 算数



全国（公立）平均正答率との差の推移

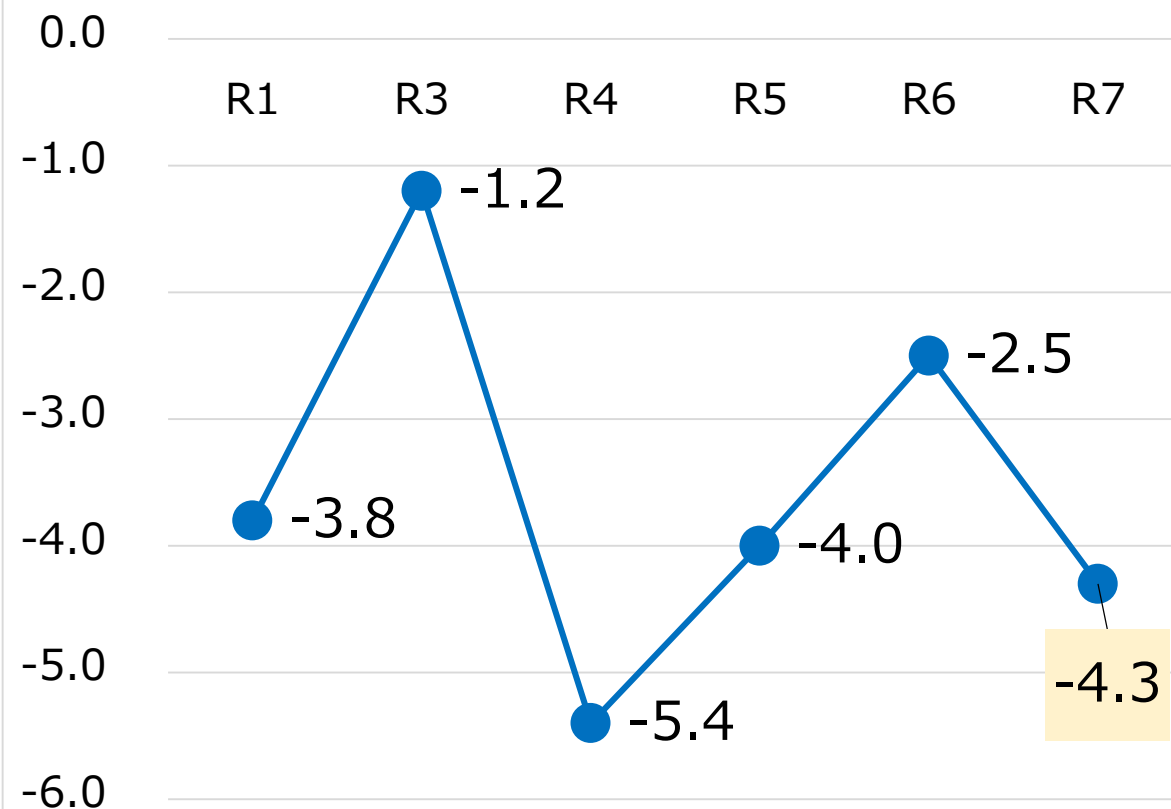
中学校 国語



全国（公立）平均との差

	R4(小6)		R7(中3)
国語	-7.6	+5.3 ➡	-2.3

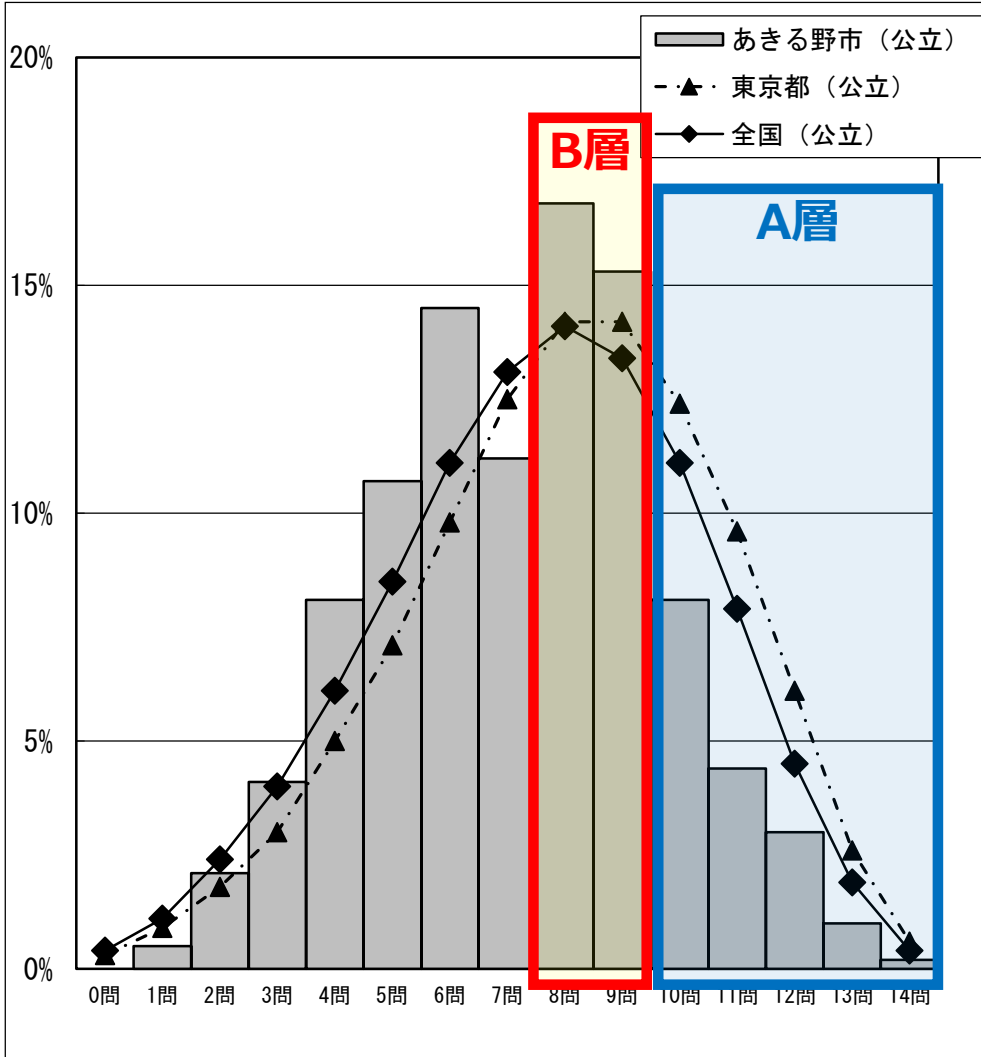
中学校 数学



全国（公立）平均との差

	R4(小6)		R7(中3)
数学	-5.2	+0.9 ➡	-4.3

「国語」に関する調査結果（正答数分布）



〈平均正答数〉

	平均正答数		平均正答率(%)	
あきる野市（公立）	7.2	/ 14	52	
東京都（公立）	8.0	/ 14	57	-5.0
全国（公立）	7.6	/ 14	54.3	-2.3

全国平均正答率との差		
R5	R6	R7
-3.8	-3.1	-2.3

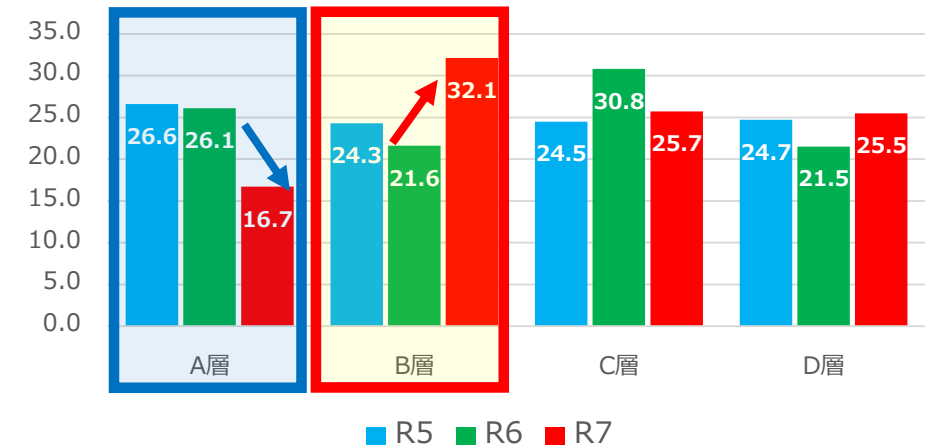
令和6年度と比較して
正答率の差が0.8%縮まる
A層の割合が9.4%減少
B層の割合が10.5%増加

〈四分位における割合%〉

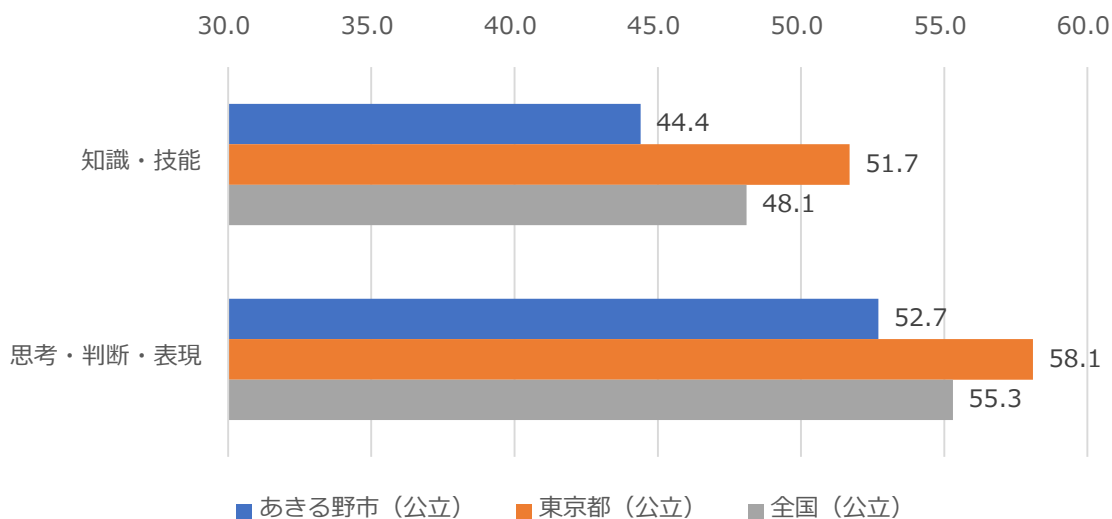
※全国（公立）の四分位による

	上位 ←	→ 下位		
国語	A層	B層	C層	D層
	10-14問	8-9問	6-7問	0-5問
あきる野市（公立）	16.7	32.1	25.7	25.5
東京都（公立）	31.3	28.4	22.3	18.1
全国（公立）	25.8	27.5	24.2	22.5

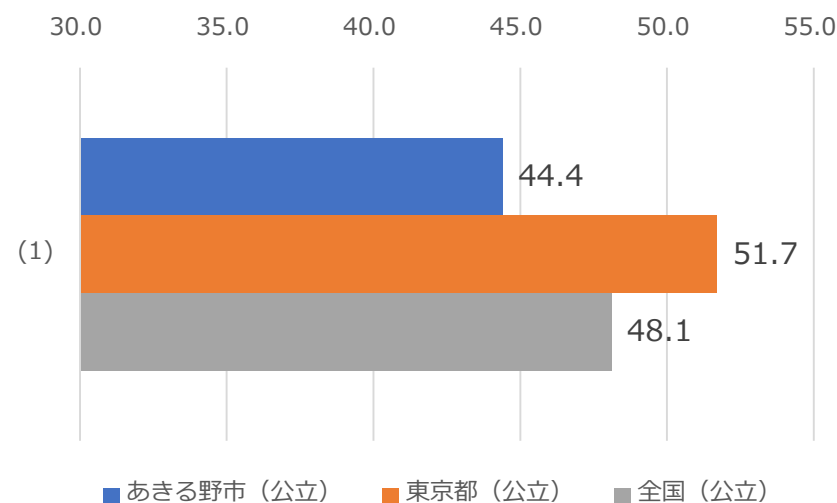
四分位における割合の変化



「国語」に関する調査結果（領域別の結果）

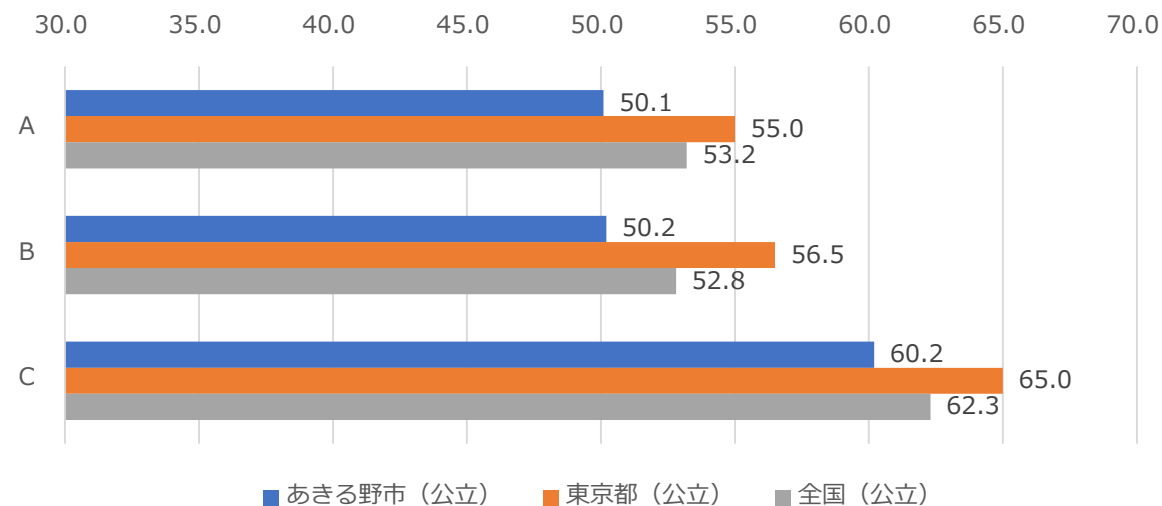


〈知識及び技能〉



全国（公立）平均との差	R5	R6	R7
知識・技能	-5.4	-4.4	-3.7
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	-5.1	-4.7	-3.7
(2) 情報の扱い方に関する事項	-3.6	-2.2	0.0
(3) 我が国の言語文化に関する事項	-6.8	-7.9	0.0
思考・判断・表現	-3.0	-3.0	-2.6
A 話すこと・聞くこと	-1.7	-1.7	-3.1
B 書くこと	-3.8	-3.8	-2.6
C 読むこと	-3.6	-3.5	-2.1

〈思考力、判断力、表現力等〉



「国語」課題が見られた問題の概要と指導改善のポイント

(「令和7年度全国学力・学習状況調査(報告書)」文部科学省・国立教育政策研究所)

学習指導要領の領域 「A 話すこと・聞くこと」

〈大問2四〉資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる。
(正答率16.5%) ※全国との差-6.7%ポイント

指導改善のポイント

資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する際には、伝えたい内容が適切に伝わるよう効果的に資料や機器を活用することが重要である。その際、話の内容を踏まえ、話の要点や根拠が明らかになっているか、説明が不足していないか、中心となる事柄が強調されているかなど、自分の考えが聞き手に分かりやすく伝わっているかを確認し、資料や機器の使い方について検討することが大切である。

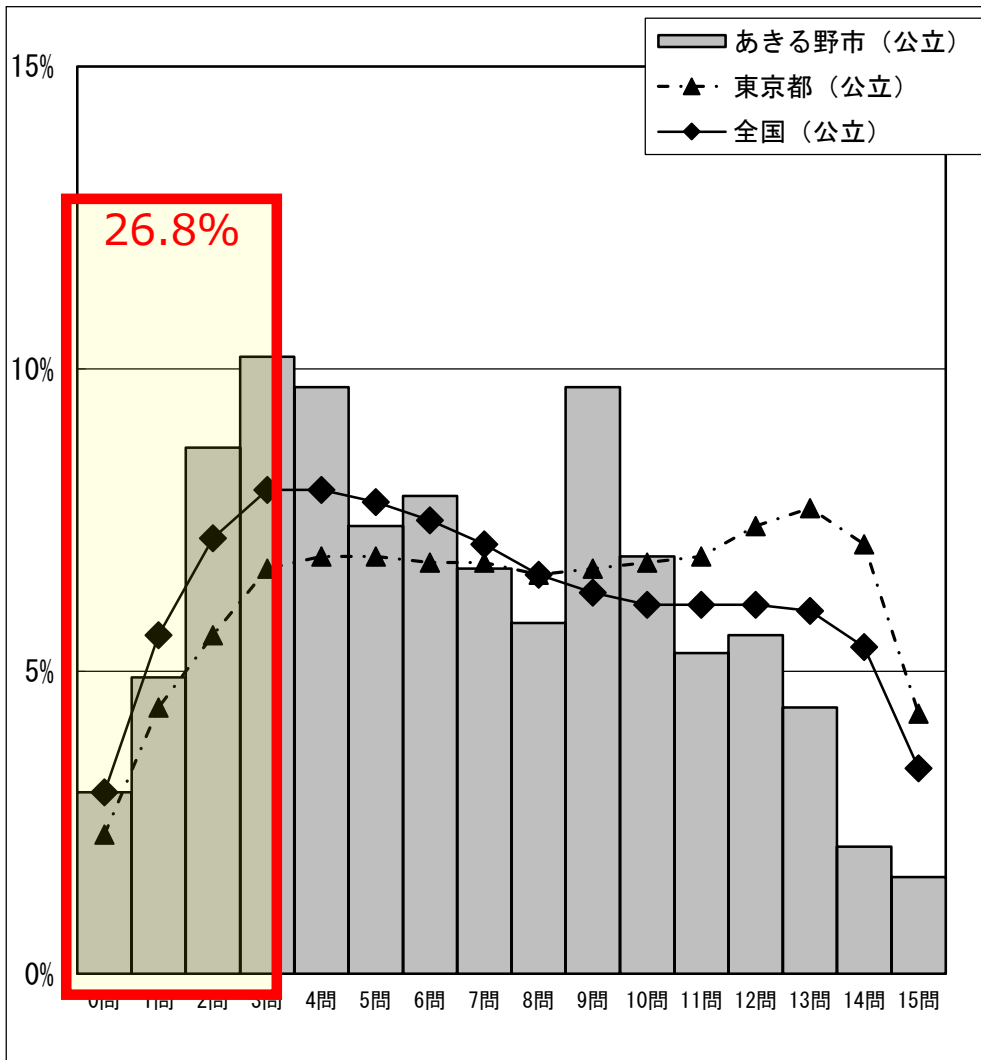
学習指導要領の領域 「B 書くこと」

〈大問4二〉読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。
(正答率26.0%) ※無回答21.7%

指導改善のポイント

書いた文章を推敲する際には、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるように指導することが大切である。叙述の仕方などを確かめるとは、文や段落の長さ、文や段落の役割、段落の順序、語順などが適切であるかなどを検討することである。学習した知識及び技能を生かして文章を整えるよう指導することが有効である。

「数学」に関する調査結果（正答数分布）



〈平均正答数〉

	平均正答数		平均正答率(%)	
あきる野市（公立）	6.6	/ 15	44	
東京都（公立）	8.0	/ 15	53	-9.0
全国（公立）	7.2	/ 15	48.3	-4.3

全国平均正答率との差		
R5	R6	R7
-4.0	-2.5	-4.3

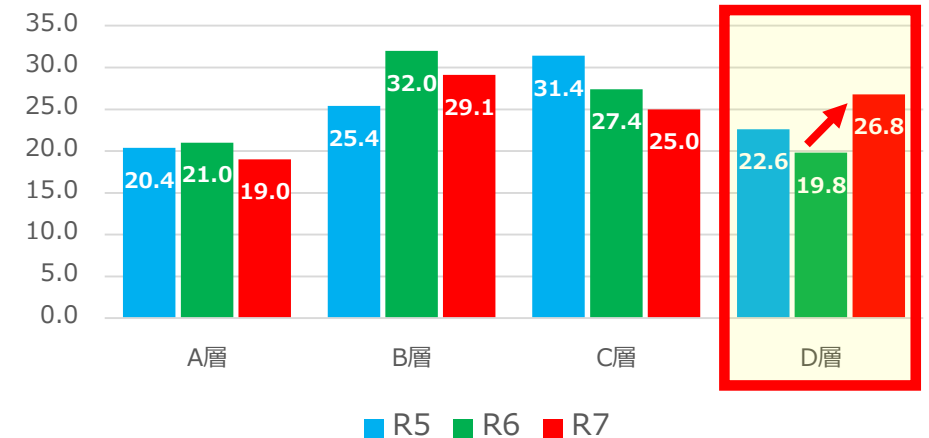
令和6年度と比較して
正答率の差が1.8%広がる
D層の割合が7.0%増加

〈四分位における割合%〉

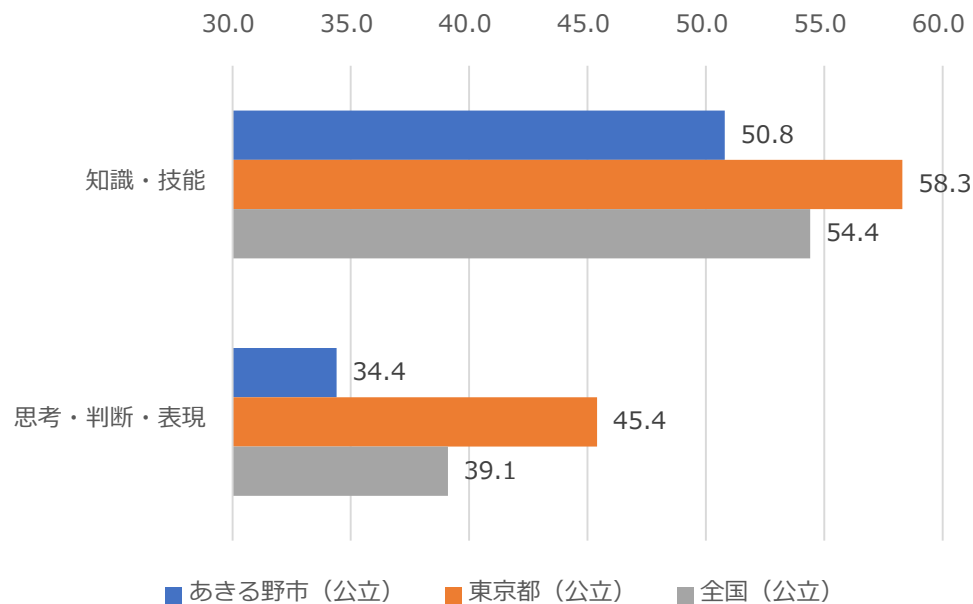
※全国（公立）の四分位による

	上位 ←	→ 下位	
数学	A層 11-15問	B層 7-10問	D層 0-3問
あきる野市（公立）	19.0	29.1	26.8
東京都（公立）	33.4	26.9	19.0
全国（公立）	27.0	26.1	23.8

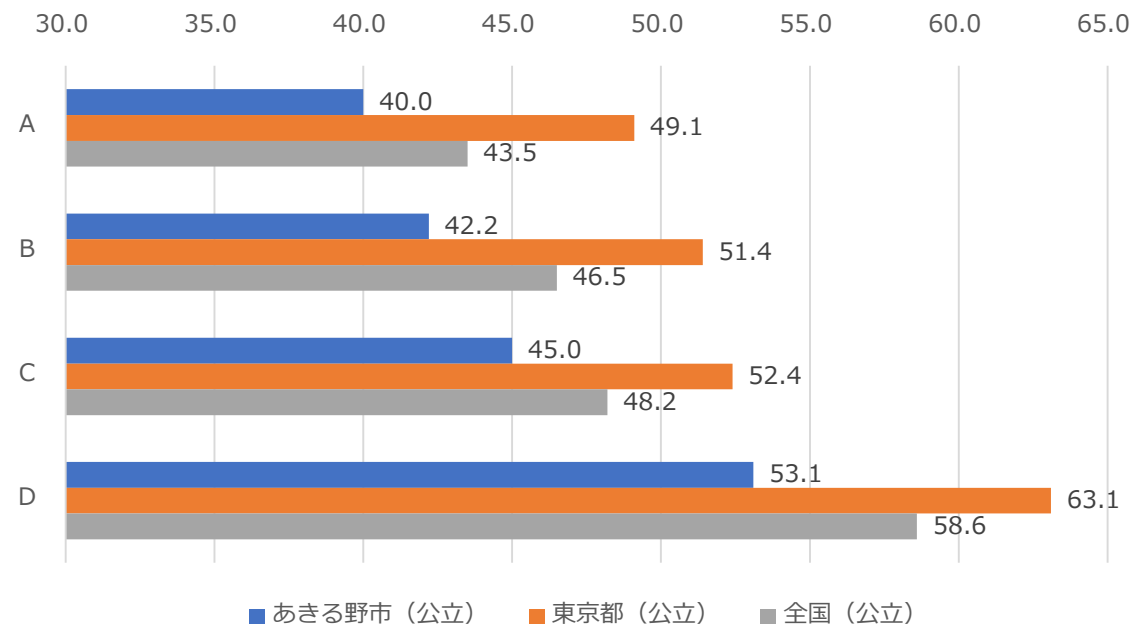
四分位における割合の変化



「数学」に関する調査結果（領域別の結果）



全国（公立）平均との差	R5	R6	R7
知識・技能	-4.3	-1.0	-3.6
思考・判断・表現	-4.3	-6.9	-4.7



全国（公立）平均との差	R5	R6	R7
A 数と式	-5.7	-4.2	-3.5
B 図形	-4.7	-3.5	-4.3
C 関数	-3.4	-2.3	-3.2
D データの活用	-2.5	-1.2	-5.5

「数学」課題が見られた問題の概要と指導改善のポイント

(「令和7年度全国学力・学習状況調査(報告書)」文部科学省・国立教育政策研究所)

学習指導要領の領域 「D データの活用」

〈大問5〉相対度数の意味を理解しているかどうかをみる。

(正答率32.2%) ※全国との差-10.3%ポイント

指導改善のポイント

ある階級の度数の総度数に対する割合を求めて、データの特徴を読み取る活動を通して、相対度数の必要性和意味を理解できるように指導することが大切である。

学習指導要領の領域 「B 図形」

〈大問9(3)〉ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる。

(正答率25.0%) ※無回答35.7%

指導改善のポイント

事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、仮定や仮定から分かる事柄、結論を導くために必要な事柄を明らかにするなどして証明の方針を立て、その方針を基に推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。

「理科」に関する調査結果（正答数分布）

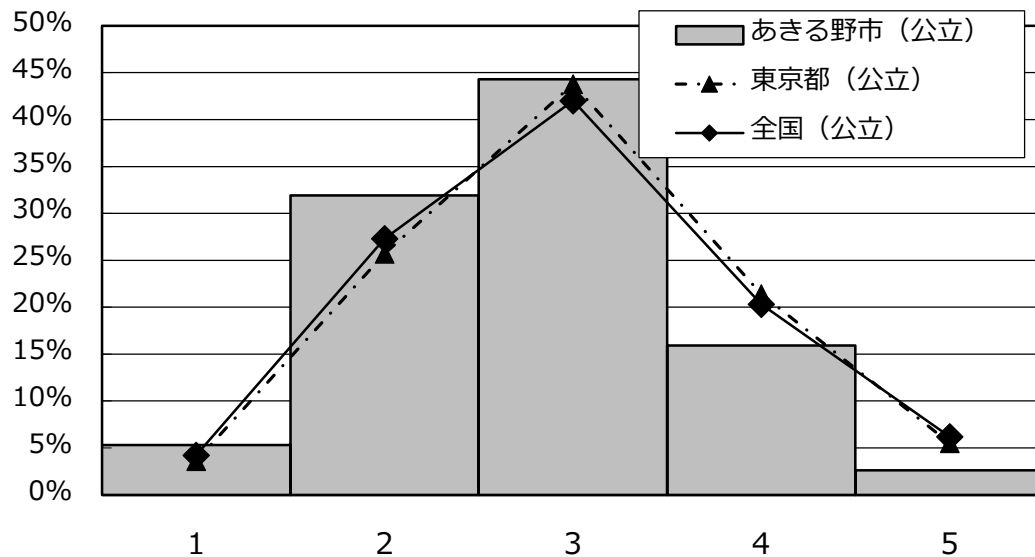
〈IRTスコア集計値〉

	平均IRT スコア	パーセンタイル値				
		10%	25%	50%	75%	90%
あきる野市（公立）	476	351	406	474	543	605
東京都（公立）	506	368	429	500	574	647
全国（公立）	503	361	422	495	572	652
全国（公立）との差	-27	-10	-16	-21	-29	-47

パーセンタイル値90%のIRTスコアが、
全国（公立）と比較し47ポイント低い

IRTバンド4～5の割合の合計が
全国（公立）と比較し8.0%低い

〈IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）〉



IRT バンド	割合(%)			
	あきる野市 （公立）	東京都 （公立）	全国 （公立）	全国 （公立）との差
5	2.6	5.5	6.2	-3.6
4	15.9	21.4	20.3	-4.4
3	44.3	43.8	42.0	2.3
2	31.9	25.7	27.3	4.6
1	5.3	3.6	4.2	1.1



「理科」課題が見られた問題の概要と指導改善のポイント

(「令和7年度全国学力・学習状況調査(報告書)」文部科学省・国立教育政策研究所)

学習指導要領の領域 A 「粒子」を柱とする領域

〈大問5(2)〉化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる。(正答率32.6%)※無回答4.8%

指導改善のポイント

指導に当たっては、「反応する物質」と「生成してできた物質」を整理した上で、化学変化を原子や分子のモデルを用いて考察させるなど、微視的に事象を捉えることが大切である。その際、1人1台端末を使用して、原子や分子のモデルを動かし、生徒が試行錯誤できるようにすることが考えられる。

学習指導要領の領域 D 「地球」を柱とする領域

〈大問9(1)〉気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかをみる。(正答率25.5%)※全国との差-5.8ポイント

指導改善のポイント

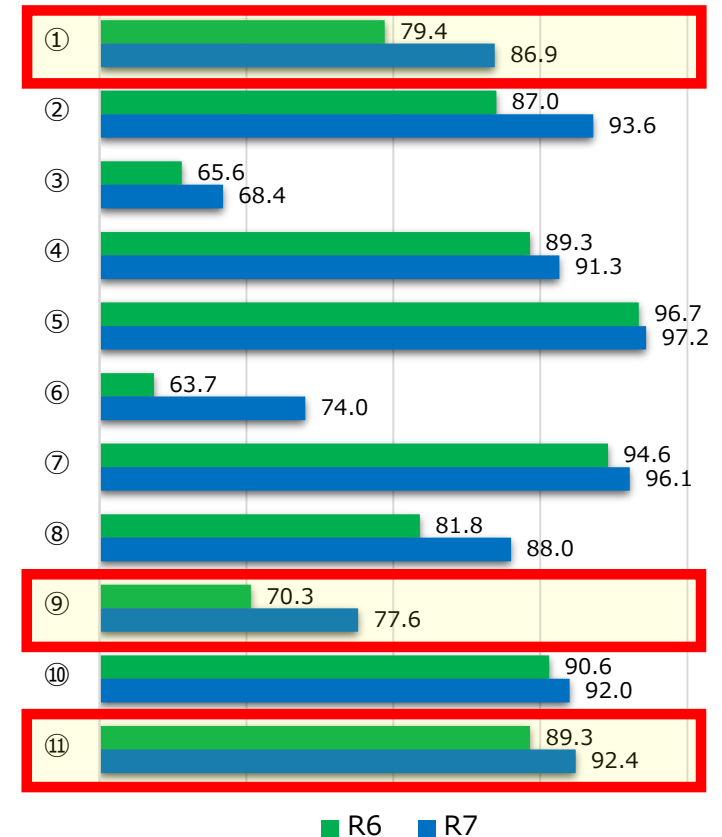
見通しをもって科学的に探究を進めていくために、自己の考えがどのように変容したか等に着目し、振り返りをする学習場面を設定することが考えられる。その際、探究の各過程で自己の考えを表現し、必要に応じて多様な視点でその考えについて振り返るようにすることが重要である。

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等

○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した生徒の割合〈全国（公立）を100としたときの割合〉

前年度との比較（肯定的な回答をした生徒の割合）

60.0 70.0 80.0 90.0 100.0

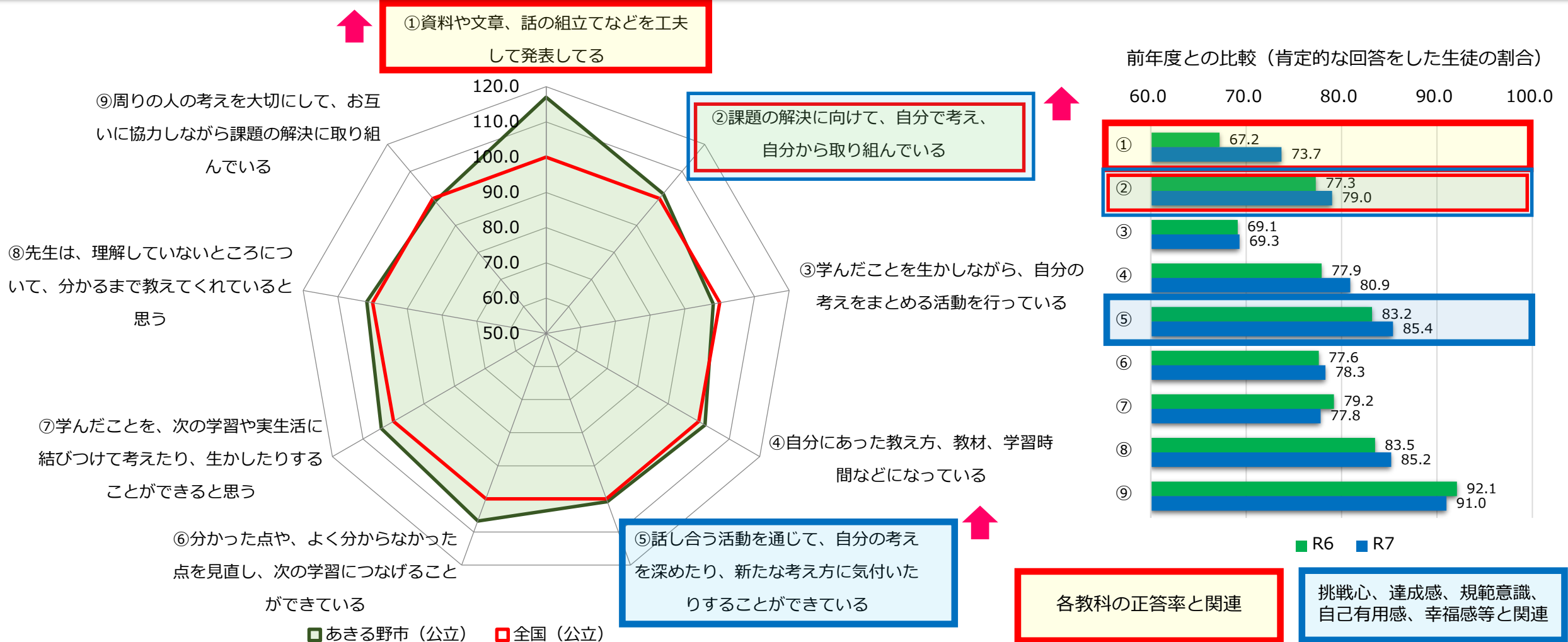


■あきる野市（公立） ■全国（公立）

○生徒の主体的・対話的で深い学びに関する回答と生徒のウェルビーイングに関する回答との間には相関が見られる。主体的・対話的で深い学びが、生徒のウェルビーイングに影響を与えている可能性がある。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

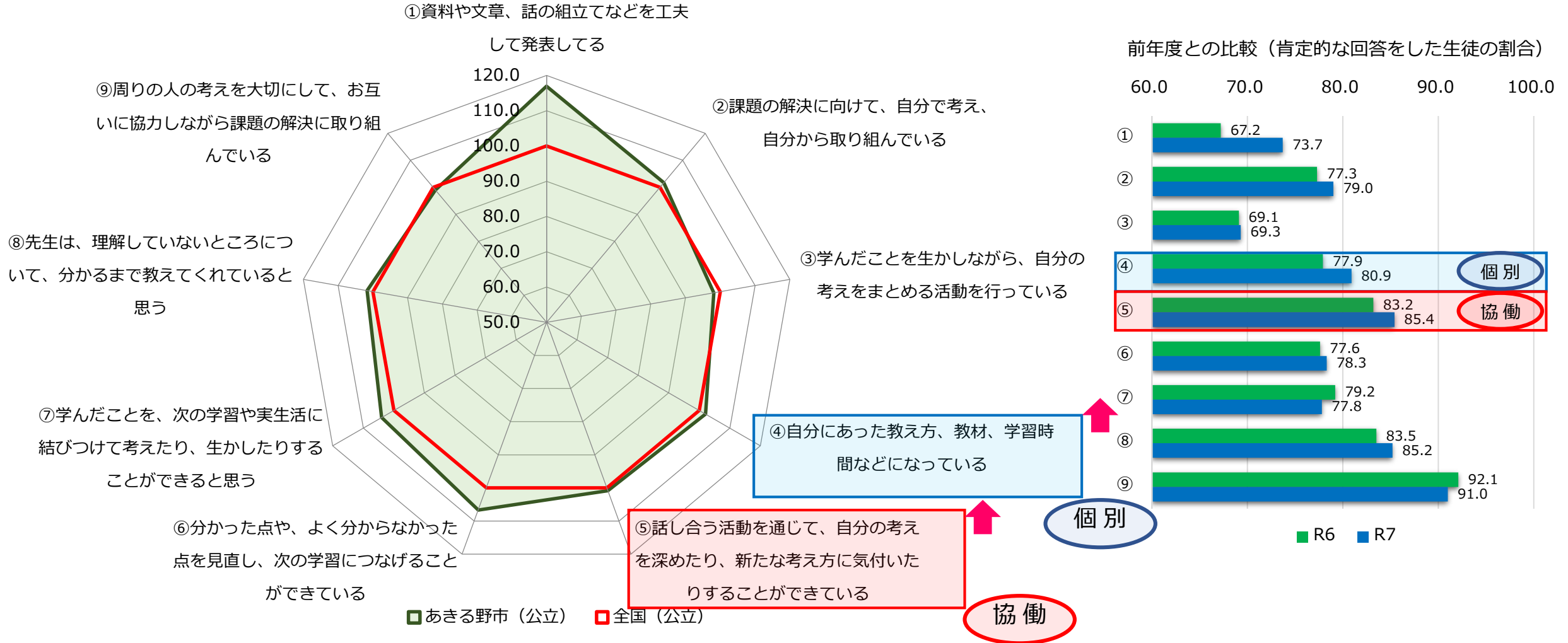
○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した生徒の割合〈全国（公立）を100としたときの割合〉



○主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える生徒ほど、各教科の正答率が高く、自分で学び方を考え工夫している。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

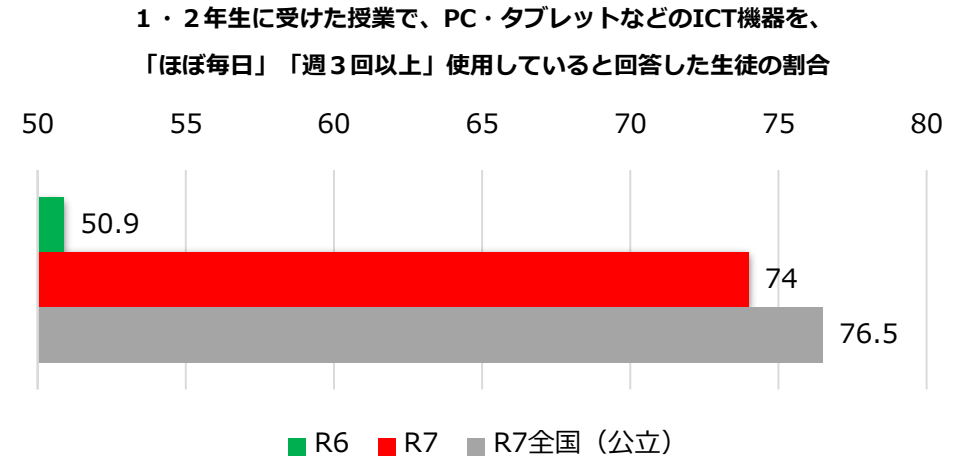
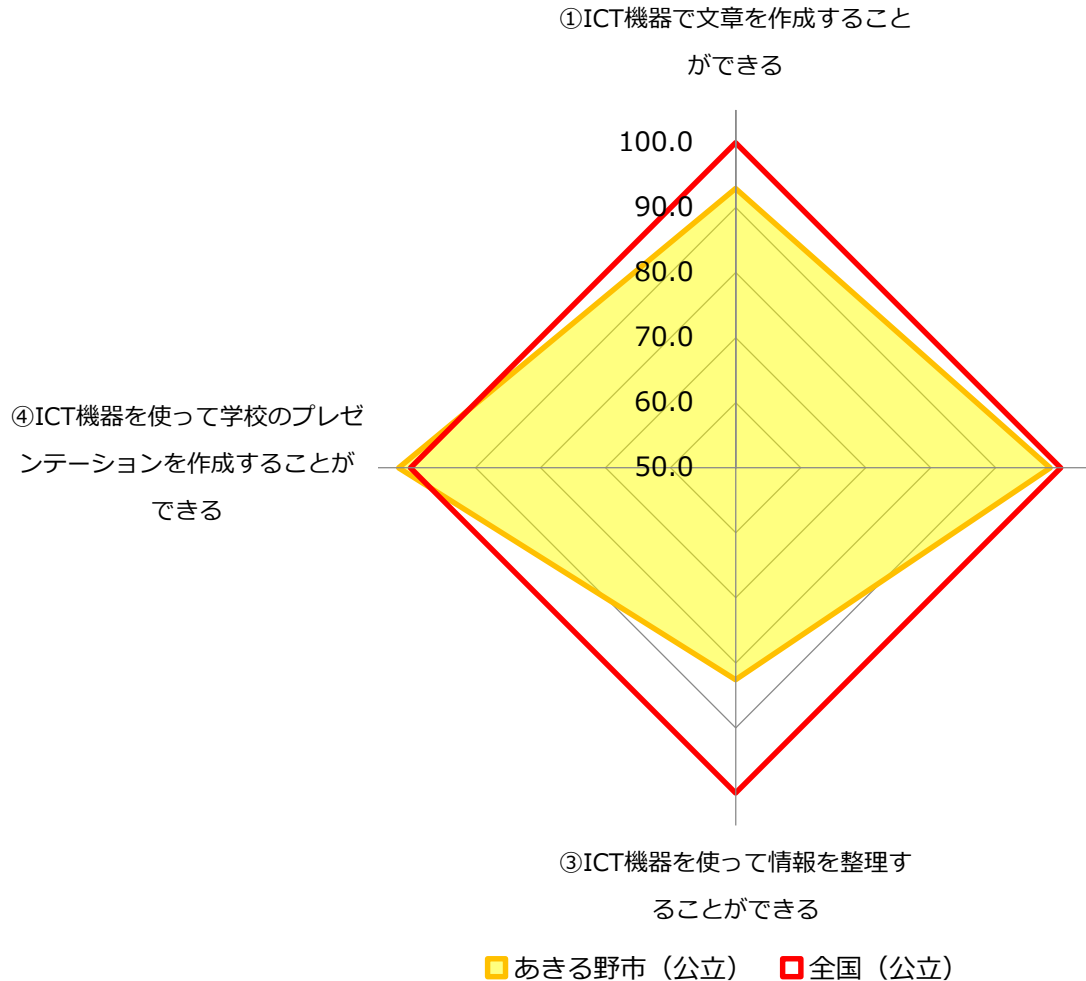
○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した生徒の割合〈全国（公立）を100としたときの割合〉



○個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだと考えている生徒は、正答率が高い傾向が見られるとともに、「学校に行くのは楽しい」「自分にはよいところがあると思う」と回答している傾向が見られる。

ICTを活用した学習状況

○肯定的な回答（とてもそう思う、そう思う）と回答した生徒の割合〈全国（公立）を100としたときの割合〉



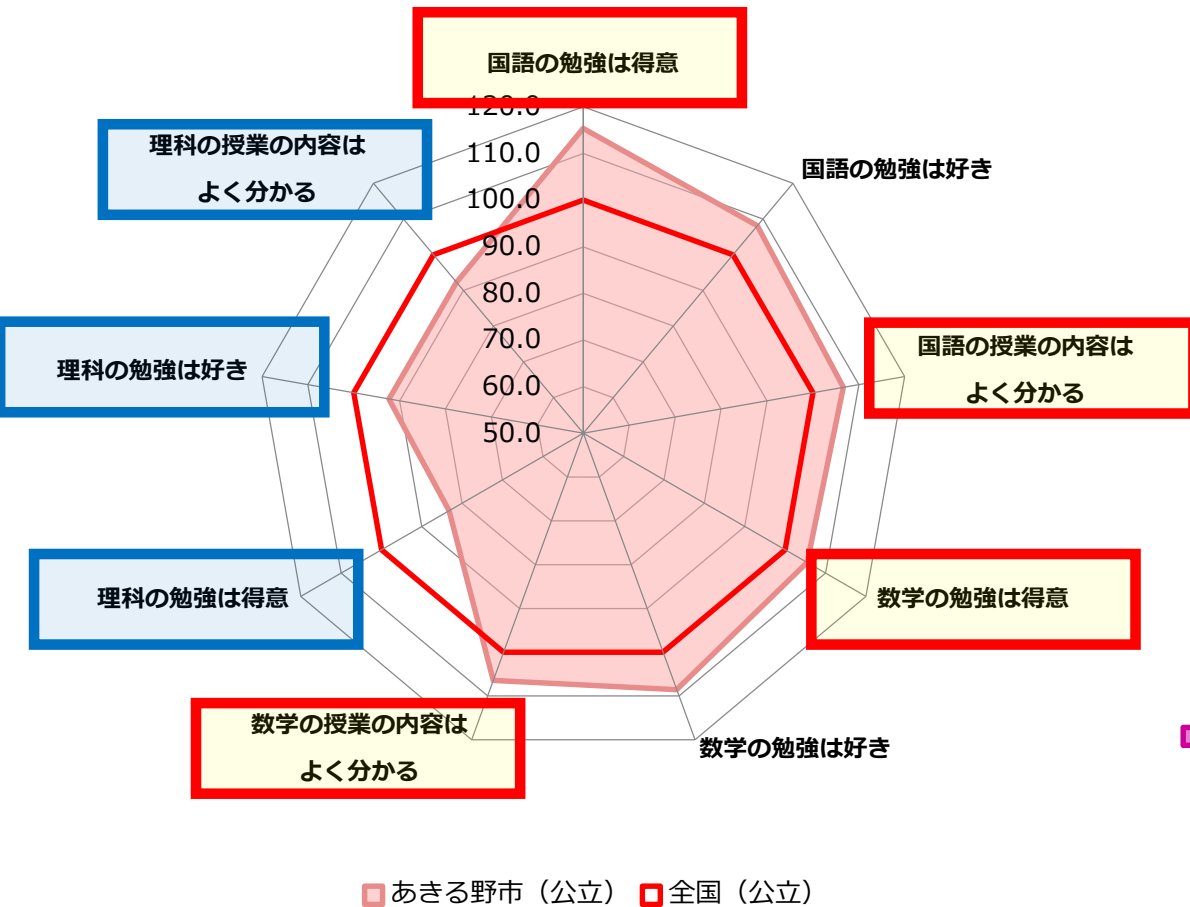
授業内でのICT機器の活用が23.1%増加

ICT機器を使って文章を作成することや
情報を整理することに課題がある

- ICT機器を活用する自信がある生徒ほど、探究的な学びに取り組んだと回答している傾向が見られる。
- ICT機器を活用する自信がある生徒ほど、各教科で自分の考えを工夫してまとめたり発表したりする活動に取り組んでいた傾向が見られる。

各教科への興味・関心、理解度

○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した生徒の割合〈全国（公立）を100としたときの割合〉



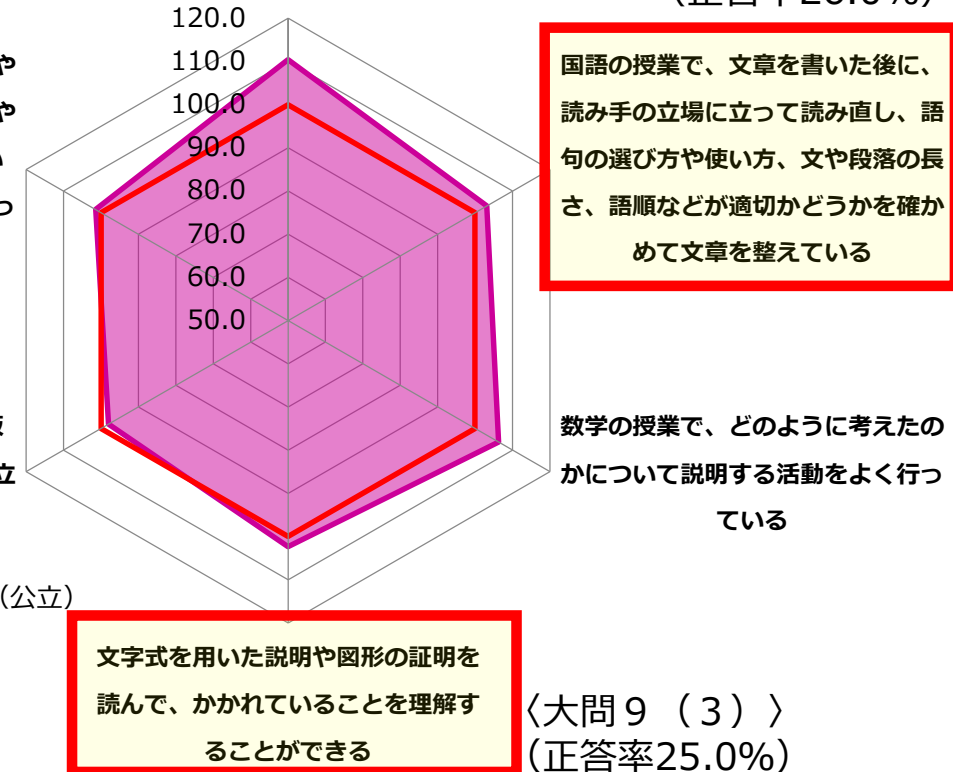
理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っている

理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てている

■ あきる野市（公立） ■ 全国（公立）

国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えている

〈大問4二〉
（正答率26.0%）



〈大問9（3）〉
（正答率25.0%）

国語・数学では、「勉強が好き」「授業の内容はよく分かる」と回答した生徒が、全国（公立）と比較して高い。

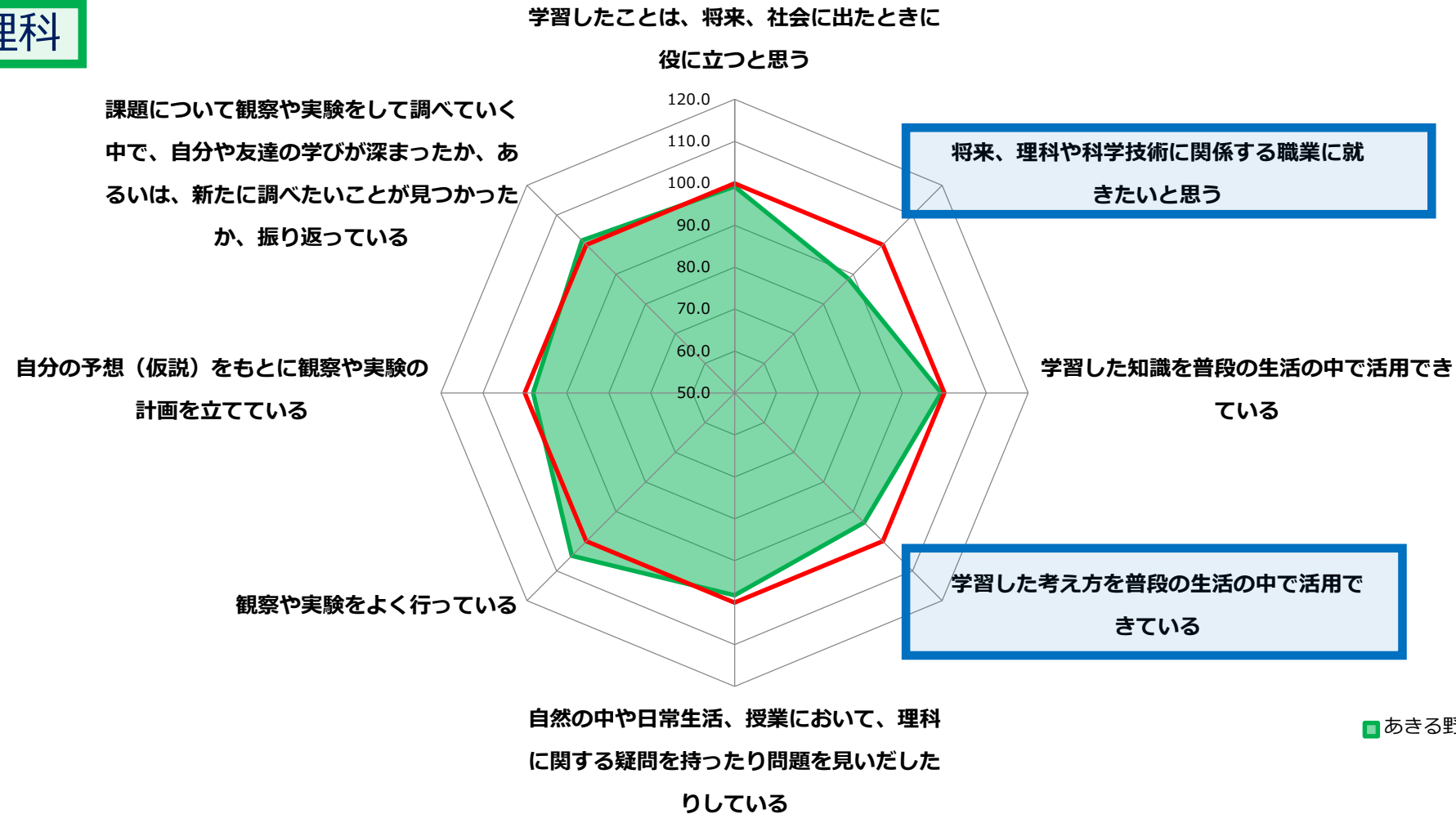


国語・数学では、平均正答率が、全国（公立）と比較して低い。

各教科への興味・関心、理解度

○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した生徒の割合〈全国（公立）を100としたときの割合〉

理科

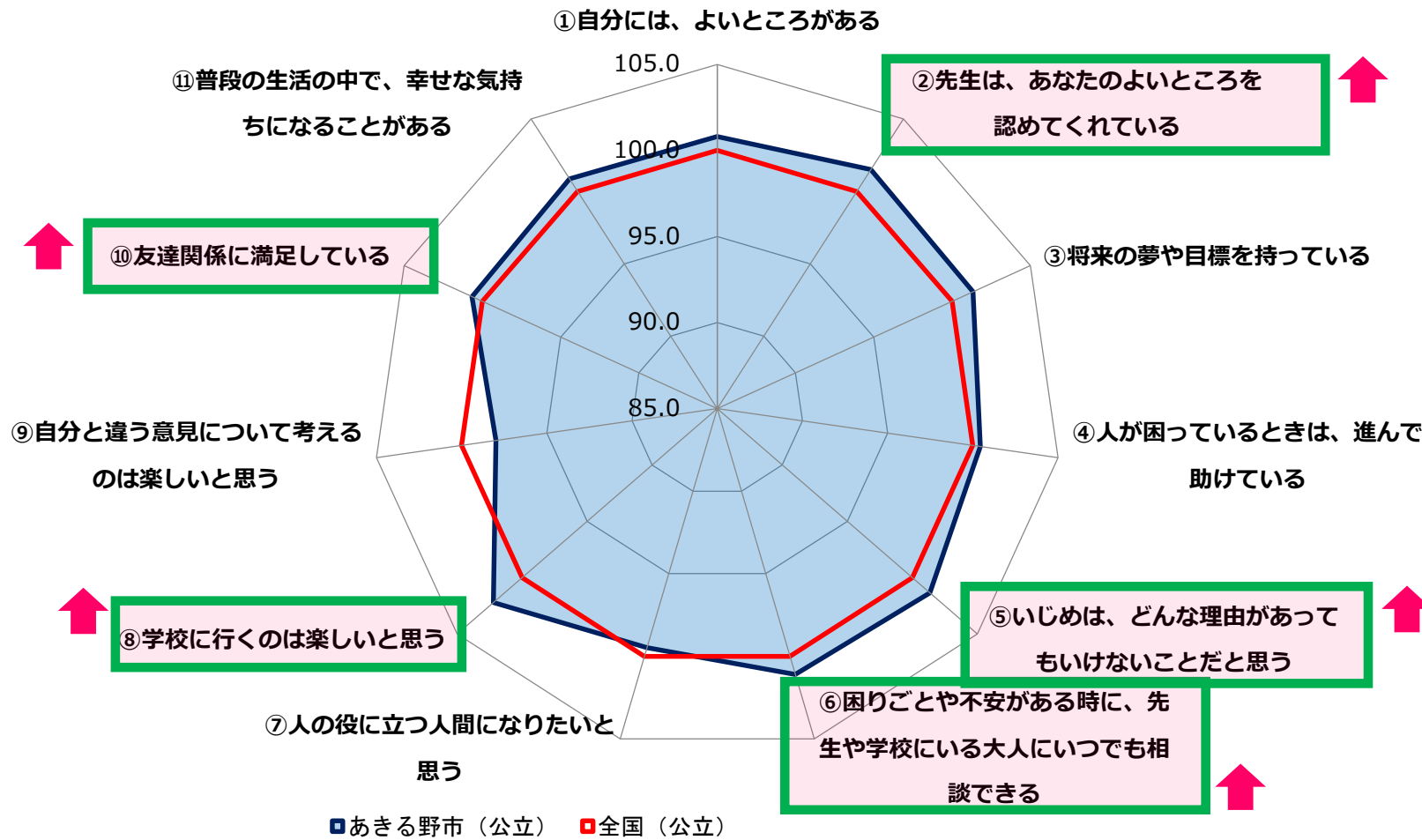


子どもたちが学習内容に疑問を持ち、考えの理由を説明させるような授業や、習得した知識を普段の生活や現実の事象と関連づけられるような授業を行うことは、授業を「わかる」と感じさせ、さらに教科を「得意」と感じさせる上でも重要と考えられる。

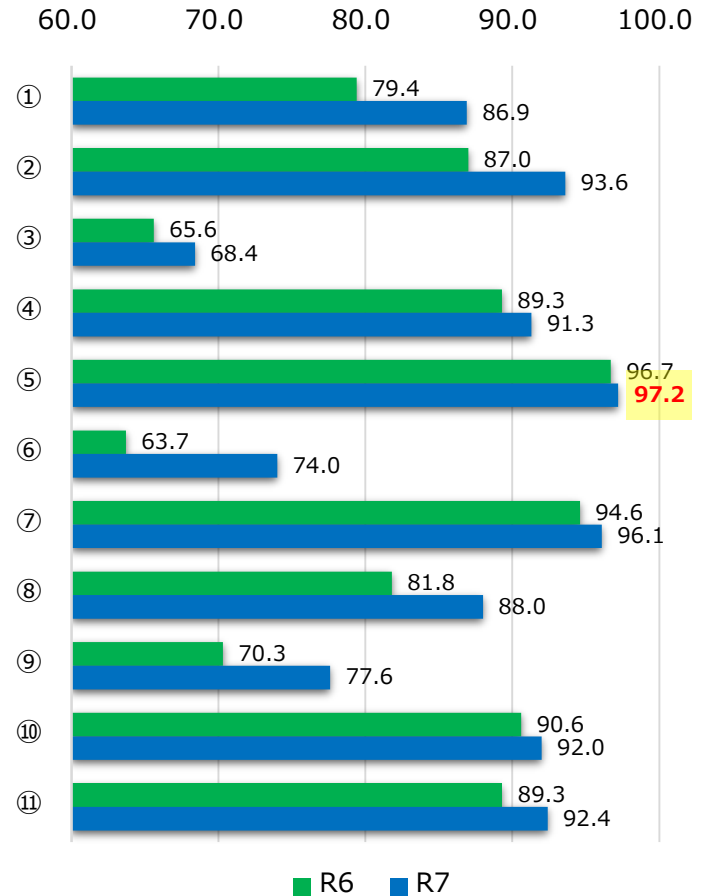
（「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）」文部科学省・国立教育政策研究所）

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等

○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した生徒の割合〈全国（公立）を100としたときの割合〉



前年度との比較（肯定的な回答をした生徒の割合）



○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に肯定的な回答をする生徒の割合
令和8年度目標値100%

あきる野市教育基本計画（第3次計画）

（「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）」文部科学省・国立教育政策研究所）

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果報告 中学校